

ベトナム鉄鋼業を取り巻く現状について

岡山県ベトナムビジネスサポートデスク (I-GLOCAL)

はじめに

近年、世界中から投資先として注目を集めるベトナムで鉄鋼業の投資が目立っている。世界的な景気の悪化、材料価格の高騰、卸売価格の下落、生産過剰等の苦境に晒される中、アジアへの進出が鍵とされる鉄鋼業であるが、ベトナムにおける鉄鋼業の現状及び今後の見通しについてレポートする。

1 鉄鋼業の現状

2012年のベトナム鉄鋼市場は、中国、日本、インド、韓国、台湾、タイに続く第7位であり、2000年以降急成長を遂げてきた。しかし、世界同時不況の影響やベトナム国内特有の問題も相俟って、ここ2、3年は伸び悩んでいる。実際、2012年度は4%の成長を見込んでいたが、ベトナム鉄鋼協会が年度半ばに早くもその目標を下方修正するなど、昨年度に続き厳しい状況が続いている。2012年度上半期のベトナム国内鉄鋼生産量は前年比11%減の225万トン、消費量も前年比10%減の224万トンと生産・消費ともに2年連続で減少している。供給過剰及び消費減少の主な原因を以下に取り上げる。

◆ 供給過剰

成長鈍化の原因として、2010年に建設需要が大幅に増加したため、供給側が、市場調査を適切に行わないまま大規模な製鉄所の建設を進めたことがあげられる。現在、ベトナム国内での鉄鋼生産量は消費量を大幅に上回っており海外輸出を促進している。2012年度の鉄鋼輸出額は、前年度より2億ドル増の約20億ドルに上ると見られている。ただし、アジア圏では、中国、日本及び韓国が既に輸出市場を席巻しており、ベトナム製の鉄鋼が今後輸出を増加させるためには、低価格で良質な鉄鋼又は高級鋼材等の付加価値が必要となってくる。

◆ 消費量減少

ベトナムにおける主な鉄鋼消費市場として、自動車製造と不動産建設があげられる。これらの業界は鉄鋼の消費量に大きく関係するため、簡単に市況を説明したい。

現在、世界中の自動車メーカーがベトナム市場へ参入しているが、都市部での渋滞緩和を目的とした車両登録税の引き上げ(ハノイでは車体価格の20%)や最近の不況により、自動車の販売台数は減少している。ベトナム自動車メーカー協会の報告によると、2012年の販売台数は昨年比34%減であり、各自動車メーカーは生産数を減少させる等の対策を迫られている。また、不動産市場は2008年のリーマンショック以降思わしくなく、特に2011年及び2012年の下落は顕著である。新規に建設されていた不動産も需要の低迷及び高金利による資金調達難により建設中断した例が多く見られた。多くの不動産関連企業が今年度赤字となる見通したが、不動産価格の下落は今が底打ち状態のため、今後上向く可能性はある。

2 今後の見通し

上述した鉄鋼業のマイナス要因はあくまでも現状である。ベトナムの著しい経済成長を踏まえると、インフラ整備や土地計画等により、長期的には鉄鋼内需が増加していくことは間違いないと見られている。インフラ、特に道路や港湾は急ピッチで整備が進められており、また都市部における大型ショッピングモール、娯楽施設及び高層マンションへの投資計画も多く、今後益々の需要増加が見込まれている。長期的な内需の増加を見越して、或いは周辺のアジア諸国への輸出を目的に、ここ数年、外資による大型投資が増加している。未だ国営企業のシェアは高いが、設備や技術が古かったり資金不足等の問題を抱えていたりするため、合弁会社の設立等により外資からの技術移転を図っている。現在のベトナム鉄鋼業の最大手は国営企業のポミナスティールで、2番手は民間企業のホアファット鉄鋼だが、両社とも投資拡大を続けている。さらにベトナム政府は国内鉄鋼業者の保護のため、輸入関税の増税を検討している。

おわりに

このように、ベトナム鉄鋼業は世界的な傾向と同じく一時的に不況となっているが、ベトナム政府の不適切な政策によって鉄鋼業の伸びが抑えられてきたことによるところも大きい。また、景気に大きく左右される業界であるため、市況が良くなれば自動的に需要も増加する。都市部では建設現場がいたるところで見受けられ、政府主導による高速道路や地下鉄等のインフラ整備に関するニュースもよく耳にする。ベトナムにおける鉄鋼業は、今後の需要拡大を取り込むため、今から最新の設備や技術を取り入れ備えることが重要である。